

産廃処分場候補地 唐津沢(西側)の防災調整池が欠落！雨水の鮎川へ放流は不可能

鮎川上流は 隧道（トンネル）で塞がれています



河川隧道（トンネル）の下流側出口の写真
(出口直径：約2m 長さ：約100m)

当該場所(本件候補地と県道37号が接する地点)

産廃処分場候補地の唐津沢は、降雨流域を新搬入道路で分けて、東側の処分場側を「敷地流域」、西側を「西側流域」としています。問題は、降った雨水を溜めて調整放流する「防災調整池」が、「敷地流域」には有り、「西側流域」は無しで直接鮎川に放流するとしています。しかも鮎川には、本件候補地と県道37号が接する地点の約100m下流に隧道（トンネル）があり、流れが塞がれています。流下能力は18.4m³/sと極めて低いため雨水の鮎川への放流は「防災調整池」無しでは出来ません。

「西側流域」に流れ込む雨水の総流出量は、1日39万m³（24時間で690mmの降雨量として）であり、「防災調整池」は28万m³の巨大な物となり、設置のための敷地は用意されていないため、新搬入道路計画は破綻しています。



豪雨時洪水の展望

西側流域に
防災調整池が無い



流域図

河川隧道(トンネル)

防災調整池有り

**産廃処分場建設
の早期
断念を求めます**

防災調整池

4.10.3 防災調整池

(1) 機能と目的

防災調整池は、埋立地の周辺で降った雨水の流出量の増大を抑制し、鮎川への放流量を調整するために設けられる。防災調整池は、建設計画地最下流部で、流末へ放流しやすい位置に設置し、開発に伴う雨水流出量を安全に流下させて防災設備としての機能を果たす。

防災調整池の概念図を図4.43に示す。

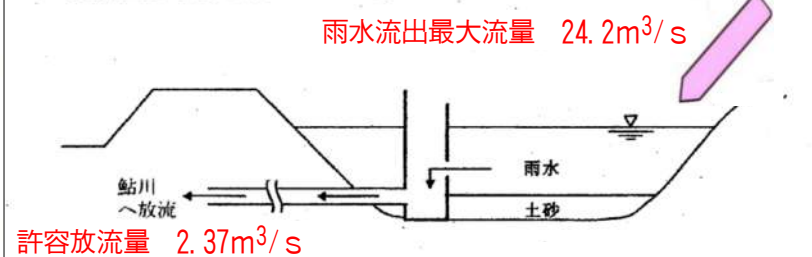


図 4.43 防災調整池 廃棄物槽

防災調整池容積 約28万m³

(2) 関連法規制

防災調整池の検討に当たっては、「茨城県の大規模宅地開発に伴う調整池技術基準」に準拠する。

知事宛て公開質問状 (22/12/19付) より

豪雨時に、唐津沢上流域から搬入道路のトンネル出入口付近に流下する激流を収集して、道路の側溝や巨大な暗渠に導く施設を整えることは至難の業であるが、この度は「本処分場敷地内への流入は生じない。」と明言されています。私どもは、唐津沢上流域からの洪水による危険性を危惧し、いかなる防災対策をとるのか機会あるごとに追及して来たが、県からは具体的な防災策が未だに何一つ示されていません。

豪雨時に唐津沢上流域から、搬入道路のトンネル出入口付近に、流出すると想定される洪水の激流（18.9m³/s）をどのような方式で収集して道路の排水溝へ導くのか教えてください。あるいは、「そのような洪水の激流などは無視して、相変わらずに、そのための洪水対策は何もしていない」と言うのであれば、その旨を回答してください。

唐津沢湖埋立ての土石運搬ダンフ

1日400台が往復！！とんでもない

処分場建設に大量の埋立て土石が運び込まれます

県は、諏訪学区の質問に、工事車両が梅林通りを通行すると回答（R4/10/29）

- 候補地唐津沢は、既に掘削されているため切土が少ないことから、整備費用はほかの2か所よりかからないということでしたが、実際には唐津沢の谷間を土石で埋め立て、その上に廃棄物槽を造ることであり、莫大な費用がかかります。

埋立て工事期間の運搬ダンフの推定計算

処分場廃棄物埋立て容積	244万m ³
盛土埋立て工事に要する土石の量 (廃棄物容量の量のほぼ半分が見込まれる)	122万m ³
外部搬入の土石推定量 (盛土埋立て土石の半分として仮定)	61万m ³
土石の推定比重(日本道路協会資料より)	2トン/m ³
10トンダンフで運搬できる土石容量	5m ³
土石運搬に必要な10トンダンフの台数 (10トンダンフ1台あたり5m ³ 運搬)	12.2万台
盛土埋立て工事期間を1年とした場合の 1日当たりのダンフ台数(300日稼働で計算)	400台以上



- この膨大な台数が、国道6号経由で油縄子交差点～諏訪梅林通り～県道37号線～処分場建設地を往復するとんでもない事態になります。
- 梅林通りは小学校や保育園があり、老人施設も近く、交通渋滞・事故・騒音・煤塵・振動など周辺住民はもとより、市民にとって大問題です。
- 谷間の盛土埋立ては、当初計画には無く、隠していました。市長が処分場受諾表明した後の基本計画図で、盛土埋立てと廃棄物山積みの異常な姿が明らかになり、今回も、埋立て容積や運搬ダンフの台数を隠したままで、県の協力依頼はありえません。

裁判 第5回口頭弁論は3月23日(木)
午前10時30分～水戸地方裁判所

カンパのご協力をお願い申し上げます。
振込口座
常陽銀行 多賀支店(店番 017)
普通預金 県産廃処分場反対連絡会
口座番号 1995334

2023年1月
県産業廃棄物最終処分場建設に反対する連絡会
共同代表 荒川照明 090-9845-7019
日立市台原町2-10-10
共同代表 数藤まち子 日立市諏訪町5-24-7

県産業廃棄物最終処分場の建設撤回 要望署名

茨城県知事 大井川 和彦 殿

2020年5月26日、大井川知事は日立市諏訪町の日立セメント太平田鉱山跡地を笠間市にある「エコフロンティアかさま」（2005年稼働時日本最大規模の産廃最終処分場）の後継候補地として発表しました。この計画では私たちの環境と命とが危うくなります。故郷日立を産業廃棄物汚染から守り、未来永劫、安心して暮らせる土地とするため、下記を要望します。

【要望】 日立市内への県産業廃棄物最終処分場の建設を断念すること。

【要望理由】

- ① 「エコフロンティアかさま」への産廃運搬車等の出入数(往復)は中小含め1日平均約500台であり、中丸町からの新設道路が建設されても市内の交通・生活環境悪化は避けられない。
- ② 新設道路の建設により、4^号に亘って桜川から唐津沢にかけての貴重な自然が破壊される。
- ③ 「エコフロンティアかさま」は日本最大級の、かつ、関東で唯一の「廃棄物処理センター」であり、特別管理産業廃棄物や特別管理一般廃棄物等も処理しているが、地下水等からはダイオキシン類や大腸菌類等が、また、場内放射線空間線量も有意に検出されている。
- ④ 太平田鉱山は日立市内で最も人口密度の高い多賀支所管内にあり、候補地としては論外。
- ⑤ 候補地は唐津沢という広大かつ急峻な沢であり、水が流れ、溜まっている。沢に作れば河川や地下水への、長期かつ広範囲にわたる影響(汚染)は避けられない。
- ⑥ 近年多発している異常降雨により、当該産廃処分場が破壊され、鮎川及び桜川流域に甚大な被害が出ることは必至である。洪水対策からも「唐津沢の湖」は残すべきである。
- ⑦ この間の県の地質調査では建設予定地の石灰岩層から空洞や高透水性が確認されている。
- ⑧ 太平田鉱山は東海第二原発から12^号にあり、過酷事故時には立入が禁止されるため、管理ができず、公衆衛生上の大問題が発生する。
- ⑨ 太平田鉱山跡地は「エコフロンティアかさま」より遥に大きく、百年以上先まで増設される恐れがある。
- ⑩ 多賀山地には日本最古の5億年前の地層群やウミユリ等貴重な化石が確認されており、一帯をジオパーク等で保存活用し、日立市の新たな町おこしにつなげるべきである。

氏名	住所(住所が同じ方も、お手数ですが番地までご記入ください)
	茨城県 市 町
	茨城県 市 町
	茨城県 市 町

【取り扱い団体:

署名送付先: 〒316-0001 日立市諏訪町5-24-7 数藤まち子 宛

署名実施団体: 県産業廃棄物最終処分場建設に反対する連絡会(電話090-6817-2838、ホームページ <http://voice2020next.org>)、個人情報目的以外には使用致しません。